株主・投資家の皆様へ
（第77期報告書）

平成27年4月1日～平成28年3月31日

未来を、人の想いも運んでいる
運ぶで変える

Challenge
from the 70th

株式会社エスライン

証券コード：9078

代表取締役社長
山口嘉彦

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、当社は平成28年３月31日をもって、第77期事業年度（平成27年４月１日から平成28年３月31日まで）を終了いたしましたので、ここに報告書をお届けし、事業の概況等につきまして、次のとおりご報告申しあげます。

平成28年６月

「当社設立70周年」に向けて、エスラインググループの総合力で、お客様に喜ばれる質の高い物流サービスを提供してまいります。

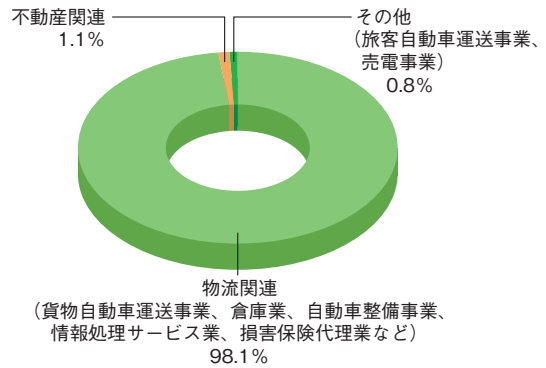
営業の概況

当社グループの主要な事業であります物流関連業界におきましては、昨年の天候不順の影響や消費者の節約ムードが続くことによる個人消費の停滞感に加え、円安による物価上昇もあり、国内の貨物輸送量が伸び悩んだ状態が続いているなかで、軽油価格の下落傾向が続いたことにより収益改善は見られたものの、労働力不足や長時間労働に対する行政の指導が厳しくなったことにより、人件費や傭車費・外部委託費等、多くのコストアップ要因が企業利益を圧迫しており、当社グループを取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況ではありましたものの、当社グループでは、「地域に密着した企業活動で社会に貢献する。お客様に満足して頂ける物流を提供する。」の経営理念を基本に、輸送品質の向上を常に考えた輸送サービスのご提供と、お客様が必要とされる物流ニーズに

売上構成比

（連結）



的確にお応えするために、当社グループが保有する物流拠点（保管庫や加工センター）や輸送ネットワーク、さらには、情報通信ネットワークを活かした情報処理システム等のインフラの整備、また、当社グループのモットーである３Ｓ（スピード、サービス、セーフティ）のもとで培われた業務分野での専門知識や、物流ノウハウを合わせた総合力を発揮して、お客様に信頼され、喜ばれる物流パートナーとして、質の高い輸送サービスや物流サービスのご提供と、さらなる事業拡大に向けての提案営業活動を積極的に進める等、グループ全体の業績確保と企業価値の向上に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、営業収益442億67百万円（前期比0.1％減）、営業利益15億３百万円（前期比21.2％増）、経常利益15億80百万円（前期比18.9％増）、親会社株主に帰属する当期純利益11億23百万円（前期比29.6％減）となりました。

対処すべき課題

次期の見通しにつきましては、雇用や所得環境が改善基調で推移していると言われているものの、先期の後半から消費活動に力強さが見られず、取扱い貨物輸送量が急速に拡大することは期待できないものと予想されます。また、労働力不足や労働時間短縮に向けた取り組みや、不安定な原油価格の動向、さらには、安全運転や環境対応に向けた車両や安全装置の導入を始め、労働環境の整備等、コストの増加要因が見込まれる等、当社グループを取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。

このような環境のもと、当社グループは平成28年度を初年度とする３ヶ年の『中期経営計画（エスラインブランドの確立に向けて）』を策定し、その基本施策として、①輸配送サービス事業の収益確保、②物流サービス事業の積極展開、③人材と物流ノウハウの育成、④経営品質の向上 と決めました。この計画達成に向けて、当社グループ全員が今まで以上に一体となり、物流サービスの質を高めるとともに、当社の根幹である輸配送サービスとの連携を強化して、お客様へのサービスレベルのさらなる向上と、事業領域の拡大を行うことにより、経営目標の達成と企業価値の向上に取り組んでまいります。

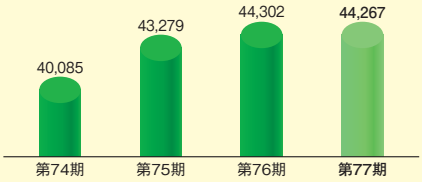
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

財務ハイライト

営業収益

442億67百万円　前期比△0.1％

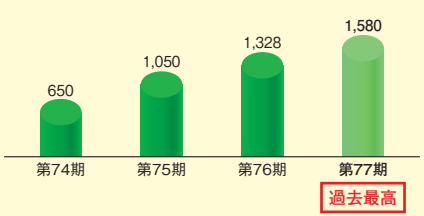
（単位：百万円）



経常利益

15億80百万円　前期比18.9％

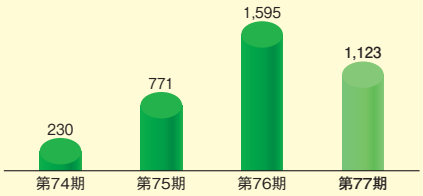
（単位：百万円）



親会社株主に帰属する当期純利益

11億23百万円　前期比△29.6％

（単位：百万円）



物流関連事業

貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業など

物流関連事業の主な事業収益は、貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業等であります。

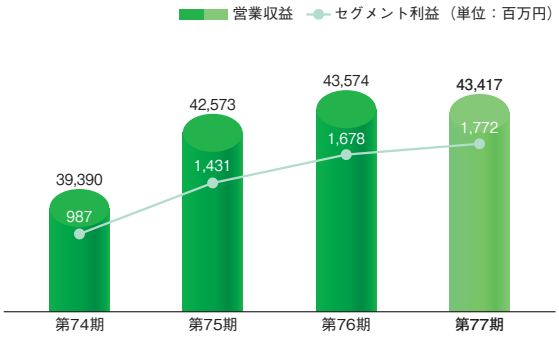
貨物自動車運送事業のうち、当社グループの主力であります特別積合せ部門では、消費税増税後の節約ムードが依然として続き、消費マインドが低下していることに加えて昨年の暖冬による影響で、季節商品の販売不振により、国内貨物輸送量は、減少傾向で推移いたしました。

このような状況下で、当社グループとしては、営業担当者のお客様訪問、電話や当社ホームページからのお問い合わせ、お取引頂いているお客様からの荷主様紹介等の、あらゆる営業情報をもとに、既存のお客様には、さらなる取引拡大を、新規のお客様には、ニーズにお応えした提案営業活動を、素早くかつ親切に行うことにより、貨物輸送量の確保と増収に努めてまいりました。また、労働力不足による人件費や、連絡中継料・外部委託費等のコストアップ分を吸収するために、適正運賃収受に向けた運賃交渉とともに、商業施設やビル内配送に必要な諸料金の収受に向けた営業活動につきましても、お客様のご理解を頂きながら取り組んでまいりました。また、小口貨物だけではなく、貸切輸送やルート配送業務のエリア拡大、お客様宅内での大物家具の移動、夏冬タイヤの交換時のタイヤ引き取り・保管といった、個人の方が日頃お困りの、ちょっとした輸送・保管サービスにも取り組んでまいりました。

また、当社グループの配送網や幹線輸送力の強みを生かした、同業他社からの配送業務につきましても、岐阜地区・三河地区にて受託しておりましたが、今期は三河地区において、さらに一社から受託をいたしました。さらには、中部、関西地区においては、幹線輸送を伴う引っ越し配送業務も受託する等、当社グループの輸送力と輸送品質が評価されたことによる新たな輸配送業務にも、積極的に取り組んでまいりました。

全面リフォームを行ったエスラインギフ関支店

434億17百万円　前期比△0.4%



物流サービス部門では、先期に稼働を開始した㈱エスラインギフの名古屋第１・第２センターにおいて、部品工場から同センターへの納品輸送や、同センターで加工組立した部品の自動車工場への納入輸送といった、調達から加工組立・納品まで行う一貫物流サービスを展開してまいりました。また、㈱スリーエス物流においては、収益性を高めるために、加工業務内容の見直しと時間短縮に向けた改善活動を進めてまいりました。㈱エスライン各務原においては、大手衣料品量販店様の指定物流業者として、長年物流加工とセンター納品輸送を行ってきた実績と、納品場所に適した保管・物流加工施設（具体的には東京と岐阜）を当社グループ内でご提供できるという優位性から、新たに寝装具ベンダー様との取引を開始いたしました。

一方、採算面では、当社グループ全社において継続実践している経営管理システム（SKKS）で「見える化」された現場データを基に、輸配送の積載効率の向上、物量に見合った配車計画の策定、作業時間帯別の人員配置や時間管理、物流センターでの保管効率に向けた生産性の向上、さらには必要経費の予実管理に至るまで、部門ごとに課題を明確にし、その改善活動を継続的に実践することにより、収益の拡大と利益確保に取り組んでまいりました。

この結果、物流関連事業の営業収益は434億17百万円（前期比0.4%減）となりました。

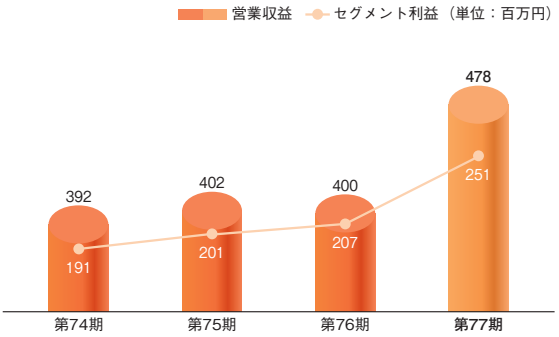
不動産関連事業

不動産賃貸業

不動産関連事業におきましては、当社グループ各社にて保有している不動産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでまいりました。今期末での賃貸物件数は19物件で前年と同件数となっておりますが、本年度は賃貸料の改定を一部の物件において行いました。

この結果、不動産関連事業の営業収益は４億78百万円（前期比19.4％増）となりました。

4億78百万円　前期比19.4％



その他事業

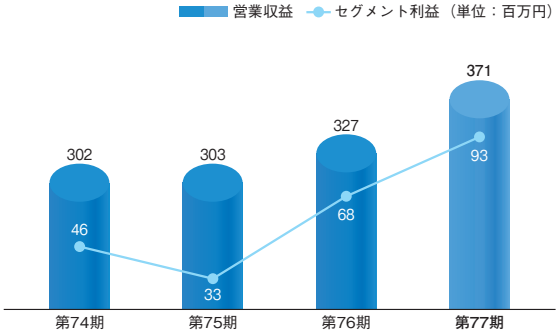
旅客自動車運送事業、売電事業

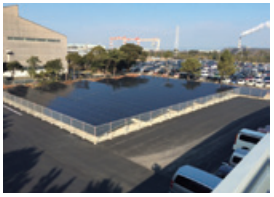
主に、旅客自動車運送事業を営んでおります。岐阜市内の高校や近隣の大学の通学バスおよびクラブ・サークル活動等の貸切バス、冠婚葬祭時の送迎バス、さらには競輪場のファンバス等、地元に密着した運行業務に取り組んでまいりました。

また、物流センターの屋上に太陽光パネルを設置し、発電した電力の売電事業を営んでまいりました。本年度は、㈱エスラインギフ豊橋支店の施設改修に合わせて、配送ターミナル屋上と支店構内に太陽光パネル（総発電量300.8kW）を設置し、新たに売電事業を開始いたしました。今回の事業開始により、当社の発電施設は４か所（㈱エスラインギフ名古屋第１・第２センター、㈱スリーエス物流本社、㈱エスラインギフ豊橋支店）で、総発電量998.48kWとなりました。

この結果、その他事業の営業収益は３億71百万円（前期比13.3％増）となりました。

3億71百万円　前期比13.3％





エスラインギフ豊橋支店に設置した太陽光パネル

連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	第77期 平成28年3月31日現在	第76期 平成27年3月31日現在
資産の部		
流動資産	9,388	10,027
固定資産	22,386	21,475
有形固定資産	19,796	18,846
無形固定資産	87	104
投資その他の資産	2,502	2,524
資産合計	31,775	31,502
負債の部		
流動負債	7,284	7,777
固定負債	6,543	6,507
負債合計	13,827	14,284
純資産の部		
株主資本	17,454	16,394
その他の包括利益累計額	△285	103
非支配株主持分	778	719
純資産合計	17,947	17,217
負債純資産合計	31,775	31,502

ポイント

■資産

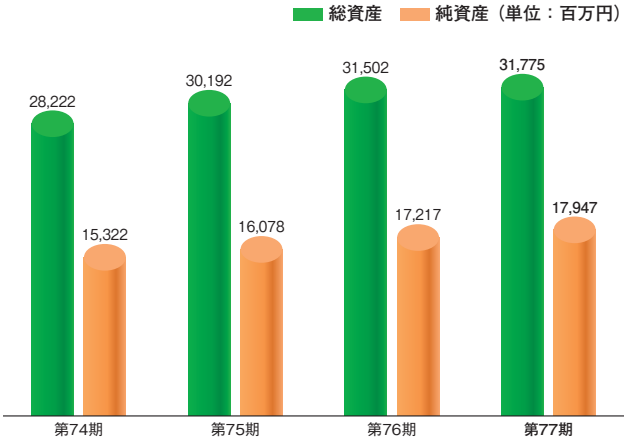
連結資産合計は317億75百万円（前連結会計年度末315億２百万円）となり、前連結会計年度末比２億72百万円増加しております。この主な要因は、有形固定資産の増加であります。

■負債

連結負債合計は138億27百万円（前連結会計年度末142億84百万円）となり、前連結会計年度末比４億57百万円減少しております。この主な要因は、営業未払金と有利子負債の減少であります。

■純資産

連結純資産合計は179億47百万円（前連結会計年度末172億17百万円）となり、前連結会計年度末比７億29百万円増加しております。この主な要因は、利益剰余金の増加であります。



連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	第77期 平成27年4月１日から 平成28年3月31日まで	第76期 平成26年4月１日から 平成27年3月31日まで
営業収益	44,267	44,302
営業原価	41,166	41,405
営業総利益	3,100	2,897
販売費及び一般管理費	1,597	1,657
営業利益	1,503	1,240
営業外収益	106	117
営業外費用	29	29
経常利益	1,580	1,328
特別利益	130	926
特別損失	41	24
税金等調整前当期純利益	1,668	2,230
法人税等	490	594
当期純利益	1,178	1,635
非支配株主に帰属する当期純利益	55	39
親会社株主に帰属する当期純利益	1,123	1,595

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	第77期 平成27年4月１日から 平成28年3月31日まで	第76期 平成26年4月１日から 平成27年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	2,232	2,424
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,698	△1,740
財務活動による キャッシュ・フロー	△527	0
現金及び現金同等物に 係る換算差額	－	－
現金及び現金同等物 の増減額	6	684
現金及び現金同等物 の期首残高	3,425	2,741
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額	△380	－
現金及び現金同等物 の期末残高	3,051	3,425

ポイント

■営業活動によるキャッシュ・フロー

22億32百万円の収入（前年同期は24億24百万円の収入）となりました。この主な収入は、税金等調整前当期純利益と減価償却費の計上であります。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

16億98百万円の支出（前年同期は17億40百万円の支出）となりました。この主な支出は、固定資産の取得であります。

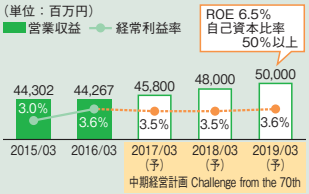
■財務活動によるキャッシュ・フロー

５億27百万円の支出（前年同期は０百万円の収入）となりました。この主な支出は、借入金の返済によるものであります。

中期経営計画『エスラインブランドの確立に向けて』を策定・公表しました。

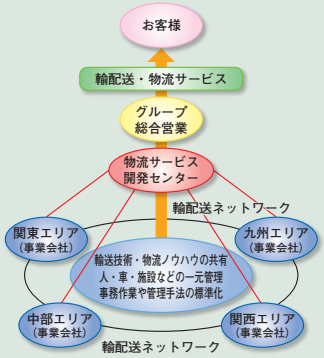
当社グループは、2019年３月期を最終年度とする中期経営計画『エスラインブランドの確立に向けて』を策定し、2015年12月に公表しました。

経営目標



	2019年３月期（最終年度）
営業収益	500億円
経常利益	18億円
ROE	6.5%
自己資本比率	50%以上

基本戦略



基本方針

『エスライングループの総合力で、お客様に喜ばれる物流を提供する』

１．輸配送サービスの収益確保
特積み事業を中心に、輸配送ネットワークを強化し、安定収益を確保する。

２．物流サービスの積極展開
物流サービスの質を高めるとともに、
輸配送サービスとの連携を強化し、事業領域の拡大を図る。

３．人材と物流ノウハウの育成
安定した雇用体制と、物流マインドを育む教育体制を充実し、人材の確保と育成に努める。
※物流マインドとは：
「物流に興味を持ち、熱い気持ちで物流業務に取り組む姿勢、物流を通じてお客様により良いサービスを提供したいと思う気持ち」

４．経営品質の向上
環境と安全を配慮した企業活動により、高品質の物流サービスを提供する。
コンプライアンス体制を強化し、社会から信頼される企業を目指す。

上記基本方針を実践して、経営目標達成に向けてグループ一丸となって取り組んでまいります。
中期経営計画『エスラインブランドの確立に向けて』の詳しい説明資料につきましては、当社ウェブサイトにて公開しております。
アドレス：http://sline.co.jp/ir/index.html

エスラインギフ豊田支店がオープンしました。

平成10年の開設以来、約18年間稼働してきましたエスラインギフの「三河安城支店」について、施設の狭隘およびサービスの充実と拡大を目的として豊田市に移転し、本年５月に「豊田支店」としてオープンしました。

あわせて「三河安城支店」内に設置しておりました家電配送専門の部署「三河センター」につきましても、同時に「豊田支店」内に移転しました。

また、本年８月末の完成予定で、「豊田支店」の隣接地に倉庫棟を建築中であります。この完成により、輸配送サービスと物流サービスが融合した一貫物流拠点として、今まで以上にお客様に高品質なサービスを提供してまいります。

さらには、「豊田支店」および建築中の「倉庫棟」の屋根には、太陽光パネルを設置し、「発電および売電に関する事業」も行ってまいります。

株主優待制度を導入しました。

当社では、株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に当社株式を中長期的に保有していただくことを目的として、本年３月に、「株主優待制度」を導入しました。

＜対象となる株主様＞

毎年３月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上を保有する株主様を対象といたします。

＜贈呈品および贈呈時期＞

毎年、定時株主総会終了後の６月下旬に、1,000円分のQUOカードを、「定時株主総会決議ご通知」とともにお送りいたします。

グループネットワーク

全国790余都市を結ぶネットワーク

当社グループは、全国の主要都市を結ぶ輸送事業とその周辺の物流事業をコア事業と位置付け、グループ全社が「お客様が一番」の価値観を共有しながら、お客様や地域社会に信頼され、喜ばれる「輸配送・物流サービス」を提供することにより、企業価値の安定的な向上に注力しております。

これからも、社員全員が『ときめき・ひらめき・こだわり』を持って、今まで以上にサービスレベルの向上と事業領域の拡大を図ることにより、さらなる高品質な物流サービスを提供できるよう、当社グループ一丸となって取り組んでまいります。

持株会社

㈱エスライン

エスライングループ

㈱エスラインギフ
㈱エスライン九州
㈱エスラインヒダ
㈱エスライン羽島
㈱エスライン郡上
㈱エスラインミノ
㈱エスライン各務原
㈱エスライン奈良

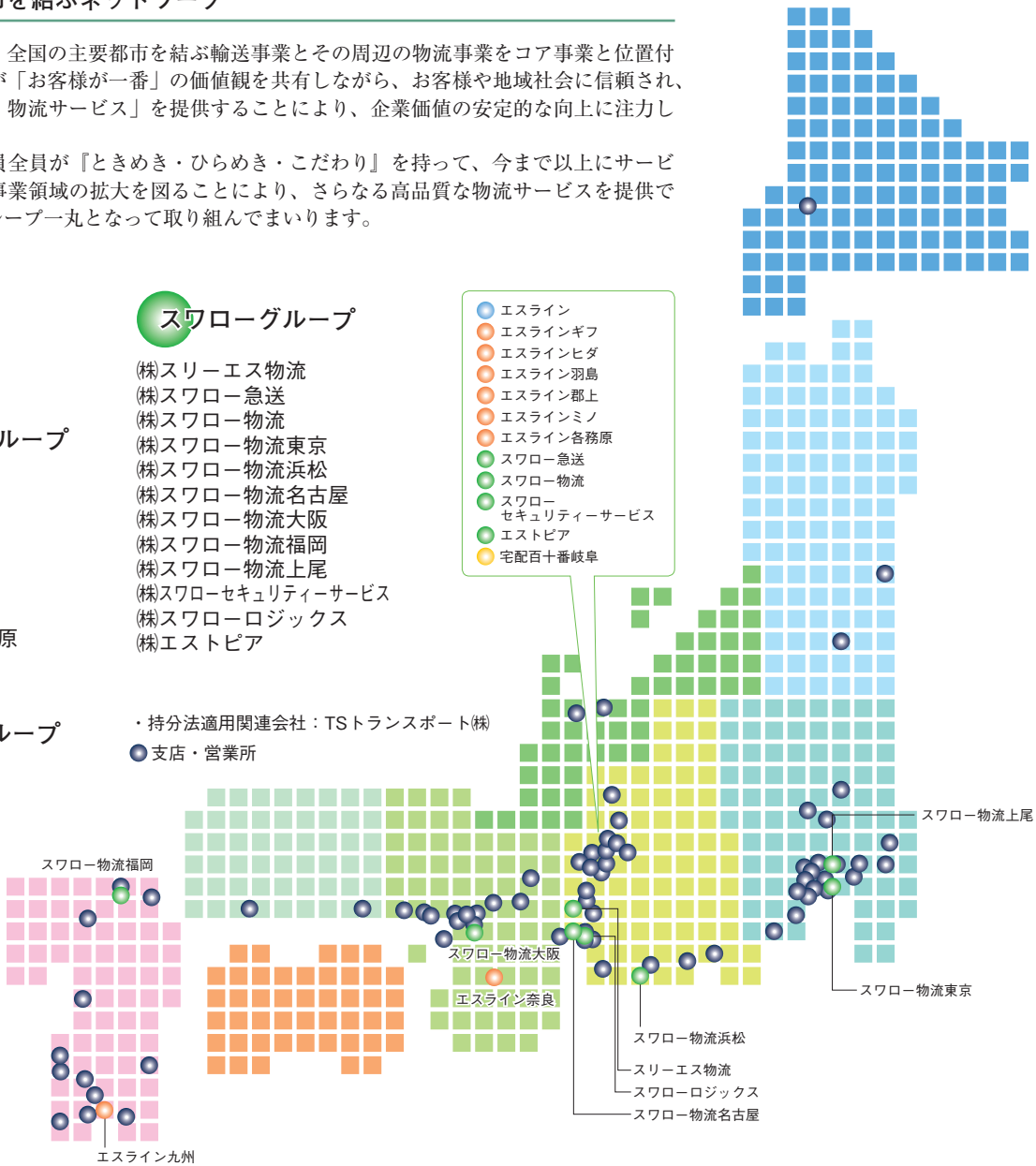
宅配110番グループ

㈱宅配百十番岐阜

スワローグループ

㈱スリーエス物流
㈱スワロー急送
㈱スワロー物流
㈱スワロー物流東京
㈱スワロー物流浜松
㈱スワロー物流名古屋
㈱スワロー物流大阪
㈱スワロー物流福岡
㈱スワロー物流上尾
㈱スワローセキュリティーサービス
㈱スワローロジックス
㈱エストピア

・持分法適用関連会社：TSトランスポート㈱
支店・営業所



会社の状況（平成28年3月31日現在）

会社概要

社名	株式会社エスライン
英文社名	S LINE CO.,LTD.
設立	昭和22年３月10日
資本金	19億3,852万6,015円
上場取引所	名古屋証券取引所　市場第二部
本社所在地	岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地 電話（058）245-3131（代表）
従業員数	2,055名（連結）

役員

代表取締役社長	山口嘉彦
取締役副社長	村瀬博三
取締役	桑原等
取締役	白木武
取締役	岡部武廣
取締役	加藤孝一
取締役	青木浩一
取締役	堀江繁幸
取締役	村瀬明治
取締役	笠井大介
取締役（常勤監査等委員）	辻上忠範
社外取締役（監査等委員）	中村正
社外取締役（監査等委員）	岡本実

経営の基本理念

基本理念

〔和〕

社是「和」のもと、労使一体の全員経営により、輸送の使命を果たす。

〔法の遵守〕

法または関係法令およびその精神を遵守し、社会から信頼される企業を目指す。

〔社会貢献〕

地域に密着した企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献する。

〔環境と顧客の優先〕

環境に配慮した物流企画の提案に努め、満足していただける物流を提供する。

〔全員参加〕

全社員が企業の運営を分担する全員経営により、対話と活力に満ちた企業風土をつくる。

株式の状況（平成28年3月31日現在）

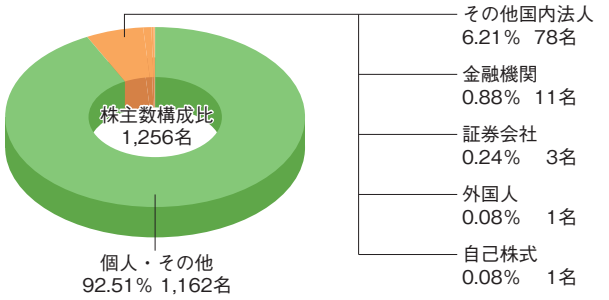
株式の状況

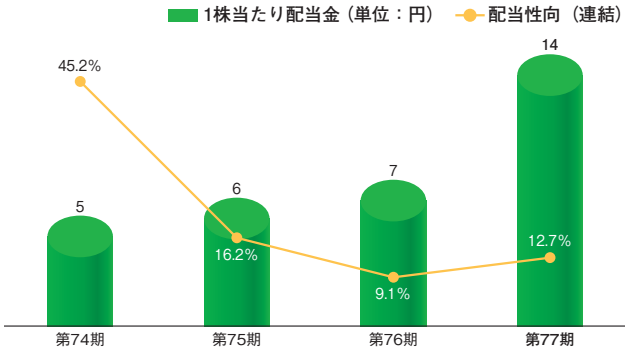
発行可能株式総数	40,847,000株
発行済株式の総数	10,211,884株
株主数	1,256名

大株主の状況（上位10名）

株　主　名	持株数	持株比率
	千株	%
有限会社美美興産	1,323	13.05
株式会社大垣共立銀行	500	4.94
みずほ信託銀行株式会社	500	4.93
株式会社十六銀行	493	4.87
明治安田生命保険相互会社	463	4.57
エスライン従業員持株会	437	4.31
株式会社市川工務店	420	4.14
株式会社三菱東京UFJ銀行	385	3.79
王子運送株式会社	223	2.20
三菱ふそうトラック・バス株式会社	219	2.16

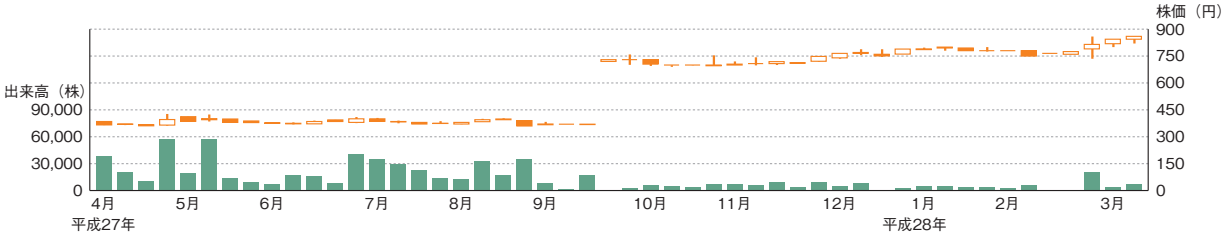
株式分布状況





※当社は、平成27年10月１日を効力発生日として普通株式２株を１株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、第76期の期末配当につきましては、当該株式併合の影響を考慮すると14円となります。

株価の推移



※当社は、平成27年10月１日を効力発生日として普通株式２株を１株の割合で株式併合を実施しております。

株主メモ

事業年度	毎年４月１日から翌年３月31日まで
剰余金の配当基準日	３月31日
定時株主総会	毎年６月
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目２番１号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 公告掲載URL　http://sline.co.jp/ ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行　証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル　0120-288-324 （土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続お取扱店（住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ＊トラストラウンジではお取扱できませんので、ご了承ください。 みずほ証券 本店、全国各支店 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取扱いたします。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行（※）およびみずほ銀行の本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります） （※）トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵送物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

株主優待制度について

(1) 対象となる株主様

毎年３月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上を保有する株主様を対象といたします。

(2) 贈呈品および贈呈時期

毎年、定時株主総会終了後の６月下旬に、1,000円分のQUOカードを、「定時株主総会決議ご通知」とともにお送りいたします。

QUOカードイメージ

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記ＵＲＬにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

http://www.e-kabunushi.com
アクセスコード 9078

いいかぶ　検索

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード５００円）を進呈させていただきます

e-株主リサーチ®

※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
（株式会社 a2mediaについての詳細http://www.a2media.co.jp）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ
「e-株主リサーチ事務局」
TEL：03-5777-3900（平日 10:00～17:30）
MAIL：info@e-kabunushi.com

株式会社 エスライン

〒501-6013　岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地
TEL：058-245-3131　FAX：058-240-4850
http://sline.co.jp/

当社ウェブサイトもぜひご覧ください。　エスライン　検索

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080
VEGETABLE OIL INK